

IMTEと業務提携

国内外のエビ陸上養殖に弾み

大手コンサル OCG社

国内のエビの陸上養殖のパイオニアとして業界を牽(けん)引してきたIMTEエンシニアリング(株)(富田ゆきし社長)と、コンサルタント大手の(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル(OCG、米澤栄二社長)は2月24日、東京・新宿区でOCGで業務提携の調印式を結んだ。今後はIMTEの技術力と、OCGの各国でのコンサル実績に基づくアクセス力などを生かし、国内外へのエビなどの陸上養殖技術の普及を目指す。

OCGは世界のインフラ案件において国内最大級のコンサルタント企業で、各国の市場や漁港だけでなく、津市で陸上養殖サーモンの生産を準備するソウルオブジャパン(株)の施設の施工や、日本水産の子会社が2004年にインドネシアでブラックタイガー養殖を手掛けた際に、現地の施工、管理などを担った経験がある。国連の持続可能な開発目標(SDGs)にも挙げられている「30年にターゲットが足りなくなる」という課題に対応するためにも、高効率で餌のコントロールなどしやすく、マングローブな

どの伐採も必要ないIMTEの屋内型エビ生産システム(ISPS)の普及に取り組み。IMTEはOCGとの提携で人材育成、ISPSのさらなる情報通信技術(ICT)導入による省人、省力化、凍結方法の見直し、物流の最適化なども進めたいと考えた。

米澤社長は「SDGsの観点からも陸上養殖は有望かつ必要性のある事業。これまでは開発コンサルタントとして設計、施工管理をしていたが、今後は新しいビジネスとして陸上養殖事業を伸ばしていきたい」と話し、まずはインドネシアでの導入を想定していると明かした。ISPSは15年ほど前から新潟・妙高市で実際にバナメイの生産を始め、「妙高雪えび」の名前で県の地場産品としてブランド化してきたが、冬期の加温コストなどが重くなっており、「一定の役割を終えた」(富田社

長)として、昨夏(しゅう)には生産を中止していた。IMTEは、20年10月には関西電力(株)と海幸(かこう)ゆきのや合同会社を設立し、静岡・磐田市にプラントを建設中。今年夏には初出荷を目指し準備を進めている。富田社長は「国内だけでも今後10か所ぐらいは必要がある」との見込みを話し、「ISPSはエビだけでなくバラマンディやサーモンなども養殖できる。OCGはシステムエンジニアも多く抱えており、今後技術のブラッシュアップなどもでき」と展望を話す。



ISPSの普及を誓う富田社長(右)と米澤社長